

あぐり情報

営農生活課
中村 好仁



◎春夏野菜の病害虫防除

3月に入りだんだんと春夏野菜の植え付けの時期が近づいてきました。そこで今回は春夏野菜でよくみられる病害虫の症状とその防除について紹介していきます。

■コナジラミ類

コナジラミ類はトマト、ピーマン、ナス、キュウリなどの作物に寄生する害虫です。被害は成虫、幼虫の吸汁による生育抑制や、排泄物からすす病が発生したり、ウイルス病の媒介などの被害があります。そしてコナジラミ類の中でもタバココナジラミはトマトの黄化葉巻病を媒介します。

防除対策として施設栽培の場合、サイド、入口、天窓などの開口部に防虫ネットなどの被覆資材を設

置する。シルバーのマルチシートを敷く。粘着シートの使用、灌水時は葉の裏に水をかけ、株元は泥の跳ね返りに気を付けるなどの対策があります。

農薬を使用する場合、トマト、ピーマン、ナス、キュウリなどに適用がある農薬はスタークル顆粒水溶剤やベストガード水溶剤などがあります。

■アブラムシ類

アブラムシ類はトマト、ピーマン、ナス、キュウリなどの作物に寄生する害虫です。被害は吸汁や排泄物の汚れ、ウイルス病の媒介などの被害があります。

防除対策として施設栽培の場合、サイド、入口、天窓などの開口部に防虫ネットなどの被覆資材を設置する。シルバーのマルチシートを敷く。乾燥に注意する。テントウムシなどの天敵を使用するなど対策があります。

農薬を使用する場合、トマト、ピーマン、ナス、キュウリなどに適用がある農薬はオルトラン粒剤やベストガード水溶剤などがあり

ます。

■うどんこ病

うどんこ病は作物の葉の表面に白い粉状の病斑を発生させます。ひどくなると葉柄やつるの部分にも発生します。発病葉はやがて黄化し落葉します。だんだん樹が弱くなったり、実の品質が悪くなったりなどの被害がでます。

防除対策として乾燥に注意する。土壌の排水性を良くすること。狭い場所にたくさん植えないことなどの対策があります。

発生してしまつた場合は発生初期にしっかりと防除する。発生した葉や実を処分する。ひどくなつた場合は農薬を使用する。もしくは他の株に広がらないために発生した株を処分します。

農薬を使用する場合、トマト、ピーマン、ナス、キュウリなどに適用がある農薬はダコニール1000やアフエットフロアブル、パレード20フロアブルなどがあります。

■べと病

べと病は主にキュウリなどのウ

駄な散布になつてしまふということに気を付けましょう。

また、耕種の防除をすることで病害虫の密度を下げることができまふ。耕種の防除とは、田畑の周辺を病害虫が活動しにくい、嫌がるような環境に変える方法です。耕種の防除の例として防虫ネット、シルバーマルチ、輪作、雨よけ栽培、適正施肥、耕運、マルチかけなどがあります。しかし、耕種の防除だけでは確実な防除が難しいことも多いので、まずは耕種の防除で病害虫の密度を低くし、農薬で確実に防除するという合わせ技が防除を成功するためのコツです。

り科の作物に発生します。

症状は子葉、本葉に発生します。子葉では、初め水浸状の斑点ができ次第に拡大して淡褐色に変化します。葉は薄くなり乾燥すると萎凋します。本葉では初め淡黄色の小斑点から葉脈に囲まれた多角形黄褐色の病斑になります。多発すると葉全体が葉緑から巻き上がつて枯れます。べと病は気温が20℃24度で多湿だと発病しやすくなります。

防除対策として土壌からの感染を防ぐため敷き藁やマルチを敷く。肥料を十分に施し肥切れしないように注意する。排水をよくして多湿を避ける。密植を避け、通風、透光を良くする。施設栽培では換気をよくするなどがあります。

農薬を使用する場合、キュウリなどに適用がある農薬はジマンダイセン水和剤やダコニール1000、ダイナモ顆粒水和剤などがあります。

■疫病

疫病はトマト、キュウリ、ピーマンなどの作物に発生します。

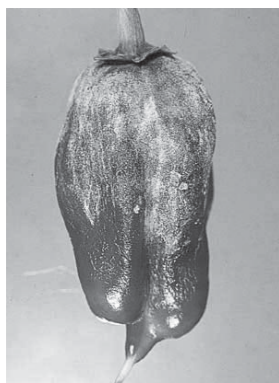
・うどんこ病



・べと病



・疫病



※農薬の使用に当たってはラベルをよく読み使用基準（適用作物、希釈、倍数、使用時期、10aあたりの使用量、総使用回数）を厳守しましょう。

